

跡地利用の事例

最終処分場の跡地利用事例としては、自然公園，グラウンド，ゴルフ場，スポーツ施設などがあります。近年では、太陽光発電施設として再生可能エネルギー事業に活用されているケースもあります。

(1) オープン型最終処分場

オープン型最終処分場の跡地利用事例は以下のとおりです。

分類	施設名	所在地	用途	埋立面積	埋立終了年
農業用地	草津ウェイストパーク	群馬県草津町	水耕栽培施設	-	平成22年
	今津リフレッシュ農園	福岡県福岡市	体験農園	644,000㎡	平成11年
緑地	石名坂最終処分場跡地広場	神奈川県藤沢市	緑地公園	-	-
	長岡公園	栃木県宇都宮市	緑地公園	60,000㎡	平成16年
公園	モエレ沼公園	北海道札幌市	公園及び洪水時の一時雨水貯留池	712,000㎡	平成2年
	神明台スポーツ施設	神奈川県横浜市	野球場・サッカー場	430,000㎡	平成23年
	今津運動公園	福岡県福岡市	運動公園	644,000㎡	平成22年
メガソーラー施設	旭川中園ソーラー発電所	北海道旭川市	2,159kWの太陽光発電施設	498,000㎡	平成15年
	三ヶ山メガソーラー	埼玉県寄居町	2,621kWの太陽光発電施設	60,000㎡	平成19年
	ドリームソーラーぎふ	岐阜県岐阜市	1,990kWの太陽光発電施設	40,500㎡	平成24年

跡地利用事例(スポーツ施設)



神明台スポーツ施設 (横浜市資源循環公社HPより)

(2) 被覆型最終処分場

被覆型最終処分場はまだ歴史が浅いことから、廃止後の跡地利用事例がほとんどありません。しかし、「跡地の先行利用」，「埋立地周辺の併行利用」，「被覆施設を利用した跡地の屋内利用」など、オープン型最終処分場とは異なる方向性での地域還元が期待されています。

(3) 跡地利用の特徴及び相違点

オープン型最終処分場と被覆型最終処分場，それぞれの跡地利用の特徴及び相違点は以下のとおりです。

形式	オープン型最終処分場	被覆型最終処分場
	跡地利用の特徴	
跡地の先行利用	不可能	陸屋根による屋上利用
跡地周辺の併行利用	隔離距離が十分にある場合のみ可能	建屋で隔離されており比較的容易
跡地の屋内利用 (建築物の建設)	遮水構造と地質条件によって基礎設置が可能となる場合もあるが、多くは廃止まで不可能	被覆構造物の転用が可能。また、被覆構造物の基礎利用による間仕切や他の構造物建設及び撤去利用も可能
周辺環境との調和	廃止されるまでは、発生ガスなどの影響を考慮する必要あり	粉じんや排ガスなどの大気コントロールが可能であり、跡地利用に影響が少ない。
早期安定化対策	大気放散，雨水影響により難しい	外部からの影響がなく，環境保全が容易に進められる

(廃棄物最終処分場新技術ハンドブックより一部編集)

跡地利用事例(メガソーラー)



三ヶ山メガソーラー (埼玉県庁HPより)